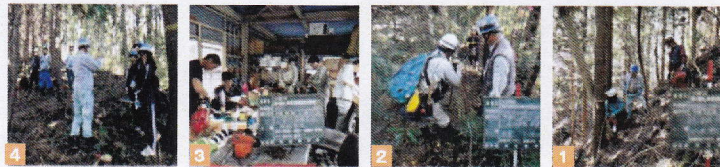


若者がやる気と誇りを持てる 新しい林業の力夕子を確立したい

戦後の大規模な造林によって植えられたスギやヒノキなどが国産材として利用される時期を迎えています。そして新たな植林を行い、次の世代に向け森林資源を残していきます。林業に従事する人はどうでしょうか？ 60年超の歳月を、山と共に歩んだある会社の社長の思いを紹介いたします。文/今井淳二



■育林切り捨て間伐（伐採）。公益的な森林を維持する上で、大事な作業です。■森林測量。植林、造林の計画を立てる上で重要な工程です。■機材整備。思わぬ事故につながらないように、細心の注意を払います。■林業体験指導（中学生）。樹齢や育成状態を鑑みて、伐採して利用することの大切さを知ってもらいます。

山を森愛する
若者を育てる



株式会社高橋林業
代表 高橋正二さん

森林
保全

株式会社高橋林業

神奈川県出身。山梨県庁林業課の職員として30年間勤務。退職後は森務組合の政務委員として2年間参事。1999年に「株式会社高橋林業」を設立。

☎ 042-689-2848
FAX 042-684-9610
📍 神奈川県相模原市緑区
牧野 8772
✉ takahashi-forestry@
honey.ocn.ne.jp

高橋さんの視線の先には、日本の林業をけん引する若者の活躍が見えているようです。

「若い社員に責任感とやる気を持たせるために、森林管理に1丁を導入したり、様々な体験や責任を取らせることで、彼らは大きく成長します。林業を次の世代へと継承させるには、スキルとやる気を持つ若者の育成が不可欠なのです」

「林業はただ山から木を切り出すだけでなく、その森林も守り育てています。誇り高く、夢のある仕事です」と、神奈川県相模原市の「高橋林業」の代表、高橋正二さんはこう述べています。我が国の林業従事者は、1980年をピークに三分の一まで減少。平均年齢は50歳を超え、手入れの行き届かなくなった山林は荒廃につながりかねません。この難題を乗り切るには、若年層の人材育成がカギとなります。

林業の未来を担う
若い世代に希望を託す